

第6号の刊行によせて

平成13年7月に開設された金沢城研究調査室は、平成19年4月に石川県金沢城調査研究所に昇格し、研究体制も充実いたしました。これを機に、金沢城研究調査室時代から進めてきました調査研究の成果をもとに、発展的な調査研究である「金沢城石垣構築技術等比較研究事業」を立ち上げました。

この事業は、金沢城を核とした城下町金沢に蓄積された、伝統の匠の技を、全国的な視点から解明し、金沢の石工技術の普遍的価値を明らかにしようという意図であります。今年度は、研究所開設記念シンポジウム「金沢城と伝統技術」を開催したほか、客員研究員による石垣技術の比較研究や、全国を対象とする石垣普請関連の絵図・文献の調査などにも着手いたしました。

本書は、金沢城研究調査室時代から数えて6号となりましたが、シンポジウム「金沢城と伝統技術」の記録のほか、文化年間の金沢城二ノ丸御殿に関する3編の論文が収載されております。太田昌子氏は、二ノ丸御殿の内部装飾としての襖絵と杉戸絵について、儀礼との関係を中心に考察しています。白峰旬氏は、二ノ丸御殿再建時の石材調達等に関して考察を行っています。川口悟氏は、二ノ丸御殿再建時における藩主・家臣（奉行）・領民の関係を明らかにしています。3氏とも、文化年間の金沢城二ノ丸御殿の様子を知りうる『御造営方日並記』の分析を通して、興味深い議論を展開しています。

また、池田仁子氏から寄せられた論稿では、金沢城代横山家の出生儀式を通して、武家の生活、城下町の生活文化史の解明を試みています。その他、所員による日頃の研究成果の報告も掲載されており、多彩な内容となっております。

最後になりましたが、玉稿をお寄せいただきました太田、白峰、川口、池田の4氏、シンポジウム「金沢城と伝統技術」の講演収録につき、御高配いただいた中村利則氏に感謝を申し上げますとともに、本書が県民の皆様の高い関心に応え、金沢城の保存・活用の一助となり、広く近世城郭史研究に資するものとなれば幸いと存じます。

平成20年3月

石川県金沢城調査研究所

所 長 北垣 聡一郎